

THEサステナビリティインパクトレーティング2026 SDG3で国内2位に輝く！

2026年6月に英国の高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」より最新の「THEサステナビリティインパクトレーティング2026」が発表されました。1,646大学がエントリーした第8回目となる今回、本学はSDG3「すべての人に健康と福祉を」において、世界同率67位（国内2位、国公立大学1位）という極めて高い評価を獲得しました。さらに、総合ランキングでも世界401-600位、国内同率8位に位置し、8年連続で公立大学1位を獲得しました。この確かな実績を原動力に、本学はこれからも世界をリードする大学を目指して、国際社会が直面する地球規模の課題に果敢に挑み続けます。

SDG3「すべての人に健康と福祉を」
国内2位（国公立大学1位）
世界同率67位

総合ランキング
国内同率8位（8年連続公立大学1位）
世界401-600位



SDGsを学ぶため中学生が本学を訪れました！

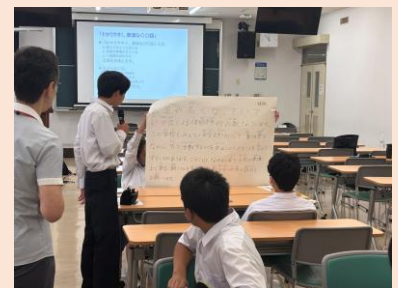
2026年6月17日（水）、名古屋分散学習（社会見学）の一環で、三重県四日市市立富洲原中学校の2年生13人が本学を訪れました。ホームページに掲載しているSDGsアンバサダーによる活動紹介を見て、SDGsの中でも特に人権問題を「自分たちの役割」として捉える力を養いたいとの依頼をいただきました。

当日は、本学のSDGs活動紹介や、看護学研究科の樋口倫代教授や大学院生に協力いただき、外国人のための「やさしい日本語」ワークショップを実施し、相手を思いやる文章の書き換えにチャレンジしました。

中学生たちは熱心に耳を傾け、積極的に質問を投げかける姿やワークショップに一生懸命取り組む姿が印象的でした。



講義の様子（看護学研究科 樋口教授）



ワークショップの発表の様子



環境デーなごや2026パートナーシップ事業の一環で地域美化活動を行いました！

2026年6月24日（水）、環境デーなごや2026パートナーシップ事業の一環として、田辺通キャンパス周辺地域の地域美化活動を行いました。陽明学区連絡協議会をはじめ、瑞穂土木事務所、パロマ瑞穂スポーツパークの方々と、本学からは薬学部、医学部附属リハビリテーション病院、SDGsセンターの学生・教職員ら計26名が参加しました。

世代や組織を枠を超えた強いパートナーシップのもと、地域の環境美化に取り組みました。



清掃活動の様子



地域の方々との集合写真





本学の研究や取り組みとSDGsとのつながりを紹介するコラムです。

第8弾として薬学研究科生命分子構造学分野の矢木真穂先生の取り組みをご紹介します！

なお、矢木真穂先生は、本学の若手研究者支援制度 Meishi Initiativeに採択されています。

『タンパク質』から病気の原因を解明！

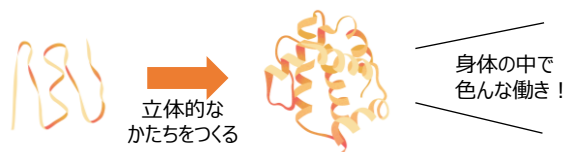
私たち人間の身体の中では、とても多くの種類のタンパク質が働いており、生命活動や健康の維持に重要な役割を担っています。一方で、本来とは異なるかたちをとったタンパク質が、病気の原因となることもあります。私たちは、それぞれのタンパク質の動きやかたちを調べ、どのような働きをしているかを研究しています。学生時代に受けた講義の中で、分泌、輸送、分解といった体内の生命活動において、様々なタンパク質がまるで人間の社会のように緻密に連携して働く姿を知り、その面白さと神秘的な魅力を感じたことが始まりでした。



矢木真穂先生

『タンパク質』のメカニズムを探る！

『タンパク質』は、アミノ酸がつながったひも状の分子が折り畳まれて、立体的なかたちをつくっています。さらに、複数のタンパク質同士が集まって、集合体をつくる（＝分子集合する）ことで、様々な性質や機能を発揮し、身体の中で働いていることが分かっています。



身体の中で色んな働き！

一方で、正しくかたちがつくれなかったタンパク質が異常に集まると、身体の中に蓄積し、病気の原因となることがあります。例えば、アルツハイマー病に関わるタンパク質について、そのかたちや集まり方を詳しく調べることで、どのような仕組みで病気の発症につながるのかを明らかにしようとしています。



SDGsセンター長
林 秀敏 先生

矢木先生が紐解く「タンパク質」の動態には、私たちの生き方、ひいては社会のあり方への深い示唆がありました。個ではなく、複数の有機的に集まることで初めて宿る機能、それは多様な人々が「志」を同じくして集い、協働することで新たな価値を創出するSDGsの精神そのものです。さらに、生命の神秘に迫るクマムシの研究は、未来の健康や福祉、そして私たちの実生活の豊かさにつながる無限の可能性を秘めており、持続可能な未来への想像力に繋がります。

最新研究トピックス

世界最強生物「クマムシ」に注目！



クマムシは、水分を失うと生命活動を一時的に停止し、高温や極寒、放射線・紫外線、さらに宇宙の真空状態などの過酷な環境下でも生き延びることが可能です。この驚くべき能力には、クマムシが持つ特殊なタンパク質が関わっています。脱水のストレスがかかると、これらのタンパク質が集合し、細胞の大切な成分や機能を守っていると考えられています。そして、水分が戻るとクマムシは元の状態に戻り、生命活動を再開します。

私たちはこのプロセスを解明し、将来的には、新しい機能を持つタンパク質や分子集合体を自在にデザインすることを目指しています。これは、生命の仕組みを理解するだけでなく、工学的な応用にもつながる研究です。



お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局
(経営企画部企画課内)

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

Tel : 052-853-8806

Mail : ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

